

「家が新築する」編

「家が新築する」編

先月号からシリーズでお送りしている「ご存じですか？景観計画」。今月は、町で家を建てたBさんの例を挙げながら、どのようにすれば景観計画に沿った家を新築(建替え等)できるのかを取り上げます。

Bさん 温暖で海や緑がある大磯が好きで、家を建てようと思いますが、景観計画に配慮する必要がありますと聞いたのですが…。

町職員 景観計画では、緑、海、空といった豊かな自然景観と調和することが大磯らしい景観として捉えています。

そのため、奇抜なデザインや色彩を控えることが必要になります。

Bさん 具体的にはどんなことに気をつければ良いですか。敷地を有効に使って、白っぽい明るい家を建てたいんです。

町職員 まず、敷地ですが、地区によっては、都市計画で定められている建ぺい率を満たすほか、家の壁面の位置を前面道路から15m、隣地境界から0.7m後

退させる必要があります。そうすることで、採光と通風が確保されます。

また、壁や屋根の色は、自然界の色彩バランスに沿うように基準値を設定しています。暖色系を中心に落ち着いた色合いの色彩から選んでください。自分が使いたい色が見えるかどうかは、事前に担当課で確認してください。

真つ白な壁の家を建てたいというご相談が多いですが、白は明るい色なので、町内では使えない色となっています。



▲良好な景観形成のイメージ

【Bさんの工夫】
Bさんのお宅は、壁面の後退が必要でした。玄関の面する道

路から、1.5m、隣とは0.7m以上離しました。すると、敷地に空間が生まれ、ゆとりのある配置になりました。



▲調和した町並みのイメージ

Bさんは、敷地に生まれた「ゆとり」にシンボルツリーとしてサルスベリの木を植え、敷地を緑化するそうです。

また、白い家を建てるのが夢だったBさんですが、建物の背後にある山々の緑に馴染むように、トーンを落としたグレーページジュを選択しました。

結果、近隣の家と配置、色彩のバランスが取れ、その一体は調和した景観を形成しています。
※次回は、「屋外に設置する自動販売機」編です。

◎問い合わせ
都市計画課 ☎内線221

シリーズ連載⑥ 大磯景観応援団

「大磯そぐろ歩き」

役場の正面に立つと、右側に海に続く小路があります。

奥に進むと突然景色が開け、正面に青い海に浮かぶ大島が現れます。右を向くと箱根の山々や伊豆半島が、振り向くと相模湾の左手にアオバトで有名な大磯の白波の岩場が続きます。

この正面の東西に延びる西湘バイパスは、昔の広々とした砂丘の頂上に、照ヶ崎海岸からこゆるぎの浜に沿ってできた道です。真下の浜には、釣りをしている人、手前のバイパスには風を切って走りゆく車を見ることが出来ます。



▲町役場南側海岸沿いから眺める景色

また、サイクリングコースを西に進むと、大磯八景の一つである「小餘綾晴嵐」の辺り、東海道松林の近くに旧財閥の別荘屋敷を見ることが出来ます。現在は一般公開されていませんが、これらの別荘を見ながら、海風に吹かれ、8人の宰相を想い浮かべながら、歩いてみるのもよいのではないのでしょうか。

(景観応援団・太田)



▲町役場西側から海へ続く小路

◎問い合わせ
都市計画課 ☎内線221